

## はじめに

近年、生活者の状況は大きく変化してきています。急速な高齢化に伴う高齢者世帯の増加、晩婚化・非婚化、少子化、離婚率の上昇とそれに伴う母子・父子世帯の増加、単身世帯の増加など、世帯構造は大きく変化し、従来、生活設計の標準モデルとされてきた「夫婦と子ども」世帯は、今日ではもはや「標準」とは言えない状況になっています。さらに、非正規雇用者や所得水準が一般的に低い層の拡大など、一定の収入が続くことが前提となっていたこれまでの生活設計の手法を見直すべき状況に至っています。

このような現状に鑑み、当センターでは2012年5月から「生活設計の今日的課題と今後のあり方」に関する研究を行い、このほど報告書として取りまとめるに至りました。

また、巻末には、本研究の一環として首都圏の男女個人を対象に実施した「生活設計に関する調査」結果を掲載しています。

今回の研究が関係各位の一助となることを願ってやみません。

最後に、2年間にわたり本研究に携わっていただきました重川純子座長をはじめ委員各位に対し、ここに記してあらためて深く感謝申し上げる次第です。

2014年3月

公益財団法人 生命保険文化センター

「生活設計の今日的課題と今後のあり方」に関する研究（2012年5月～2014年3月）

座長 重川 純子（埼玉大学教育学部教授）

委員 乗本 秀樹（三重大学教育学部教授）

上村 協子（東京家政学院大学副学長）

江澤 雅彦（早稲田大学商学学術院教授）

藤田由紀子（大東文化大学非常勤講師）

（敬称略）

## 目 次

序 章	これからの生活設計を考える	公益財団法人 生命保険文化センター……	1
第1章	生活保障と世帯構造	早稲田大学教授 江澤 雅彦……	7
第2章	リスク社会の生活設計 —リスクを乗り越え、将来をみつめる手段としての生活設計	大東文化大学非常勤講師 藤田由紀子……	29
第3章	生活設計における目標設定の考え方	三重大大学教授 乗本 秀樹……	41
第4章	生活設計と家計のリスク —家計リスクへの対応からレジリエンスを高める方策を考える	埼玉大学教授 重川 純子……	65
第5章	家計の収入リスクと支出リスクへの対処 —‘意図せざる’収入リスクと支出リスクへの備えが意識されるなかで	大東文化大学非常勤講師 藤田由紀子……	81
第6章	主体的な生活設計力の形成 —消費者教育・金融経済教育とキャリア教育の統合に向けて	東京家政学院大学副学長 上村 協子……	107
■	生活設計に関する調査 (2012年11月実施) ……………		129